

とやま



県広報とやま



特集／水がつくった富山の歴史



みんな知ってる？昔の洪水ではこんなに大きな石が流れてきたんだよ。(元気いっぱい、富山市立太田保育所の子どもたち)

TOPICS [トピックス] 1

特集
水がつくった富山の歴史 3

CLOSE UP [クローズアップ]
環日本海環境協力の中核拠点へ着実な第一歩 7

とやま感動案内
立山博物館 まんだら遊苑 9

地域をつくる仲間たち〈人物カフェ〉
世界野生生物映像祭ボランティア 早勢欣和さん 11

健康ひとくちメモ 手軽な疲労解消法 13

行ってみよう情報 14

とやま音のある風景
墓ノ木自然公園の野鳥と黒部川の水音 15

4月 (12日)

県政に積極的な提言を



「積極的提言を」とあいさつする中沖知事

■県政モニターへの委嘱状交付式が四月十二日、富山市の県民会館で行われました。
■県政モニターは、県民の声を県政に生かすことを目的に昭和五十六年度に始まった制度です。十期目となる今回は、公募枠を従来の五十名から百名に倍増し、市町村推薦枠と併せて二百五十名が委嘱されました。

■交付式では、中沖知事が、モニター代表の高柳幸子さんに委嘱状を手渡し、「県政の課題はたくさんあるので、前向き、建設的、辛口な意見を遠慮なく寄せていただきたい」とあいさつしました。

■県政モニターは二年間で、県が実施するアンケートに回答したり、懇談会に参加するほか、県政に対する提言を随時行うことになっていきます。県では、これらに声を傾け、積極的に施策に反映していくことにしています。

●問合せ 県庁広報課
☎076(444)3133

4月 (17日)

発表！富山を熱くするプログラム

■四月十七日、県民会館で「200X年 県民が燃えるプログラム」事業の最終プログラム発表会が開催されました。

■この事業は、二十一世紀に向けて県民自らが目標を定め、夢と希望にあふれる富山県を実現していくこと、県内の有志により進められているものです。平成七年に県内外から募った二千三百七十件のアイデアをもとに「人が緑が燃えるまち」「県民活動、燃えるステーション」「200X年冬の火

祭り」の三つをテーマに選び、具体的なプログラムの内容を検討してきました。

■今回まとめた最終プログラムでは事業の方向性として、①県民が主役のまちづくりをめざして高岡市に「200X年まちづくりの会」を設立し、「とやまのまち」探検隊を実施する。②ボランティア活動などをさかんにする仕組みを考える。③200X年県民活動を育てる会を設立する。④県民の遊び心に火をつけるため、年末にたいまつパレードや花火ショーなどを内容とする。⑤200X年冬の火祭り」を開催する。などを示しています。



プログラム委員会の米田座長から最終プログラムを受け取る中沖知事

●問合せ 県庁計画課
☎076(444)9690
URL
http://www.pref.toyama.jp/sections/1012/200X/index.html

4月 (27日)

安心して利用できる介護サービスの提供を要請

■来年四月からスタートする介護保険制度において、介護サービスを提供する事業者向けの説明会が、四月二十七、二十八日の二日間、開催されました。

■介護保険制度では、県の指定を受けた事業者が、介護サービス計画の作成、在宅サービスや施設サービスの提供などを行うことになっており、利用者は、自分に合った事業者を選択することができま

■事業者の指定申請は、全国のトップを切って六月一日から開始されることになっており、県では、順次審査のうえ適切な事業者を指定していく予定です。

■また、県では、利用者が事業者を選択する際の相談相手となる「介護支援専門員」を引き続き養成するなど、介護保険制度の導入に向けた準備を進めていくことにしています。

●問合せ 県庁高齢福祉課
☎076(444)3262



熱心に説明を聞く介護サービス関係者

4月 (29日)

県水墨美術館が 待望のオープン！



中沖知事らによるテープカット

■四月二十九日、近代水墨画の流れを紹介する全国的にもユニークな美術館、富山県水墨美術館がオープンしました。

■二十八日に行われた開館記念式典では、中沖知事が、「国内外の多くの方に、日本の美とそれを培った心を十分に鑑賞していただきたい」とあいさつ。続いて、砺波市出身の画家、下保昭氏らと共にテープカットをして完成を祝いました。

■同美術館は、寄せ棟造り日本瓦葺きの本館と茶室、日本庭園などで構成され、竹内栖鳳ら大家の水

■開館記念特別展として五月三十日まで開催された「横山大観展」には、延べ四万六千人もの美術ファンが訪れ、大観の壮大かつ緻密な世界を堪能しました。

●問合せ 富山県水墨美術館
☎076(431)3719

5月 (4日)

県友好代表団が 中国遼寧省を訪問

■富山県と遼寧省との友好県省締結十五周年を記念して五月四日から八日までの五日間、県内の経済、文化、教育など各界代表者からなる富山県友好代表団が中国遼寧省を訪問、省都瀋陽市で行われた十五周年記念式典や、富山県水墨画展の開会式などに出席し、両県省の相互理解と友好親善



瀋陽植物園での記念植樹

■今回の訪問では、県立富山中部高校と瀋陽市の東北育才学校とが友好協定に調印したほか、両県省の芸術団体が十一月に友好提携を締結することに合意しました。また、中沖知事が、富山空港と大連周水子国際空港との友好空港の締結について協力を要請したのに対し、張国光遼寧省長などから前向きな姿勢が示されました。

●問合せ 県庁国際課
☎076(444)3158

水

がつくった 富山の歴史

私たちの暮らしになくってはならない「水」。しかし、ひとたび大量の水が河川に流れ込めば、恐ろしい災害を引き起こします。日本でも有数の急流河川をもつ富山県の歴史は、水との関わりを抜きに語ることはできません。水と闘い、水を治め、水を利用して、今日の富山県を築いてきた先人たちの英知と努力。美しい自然、そして私たちの豊かな暮らしの背景には、決して忘れてはならない歴史があります。

水の王国、富山県

富山県は「水の王国」。日本の屋根、海拔三〇〇〇メートル級の北アルプスに積もる雪は、天然の巨大な白いダムとなり、一年を通じて豊かで清冽な水を平野にもたらします。

富山の水の特徴は、水量が豊富だけでなく、適度にミネラルを含み、良質で淡泊な味であること。環境庁が選定した「日本の名水百選」には、全国最多の四箇所が選ばれています。



■富山県内の「日本の名水百選」

水がもたらす自然災害

しかし、水がもたらすのは恵みだけではありません。

江戸時代の著名な学者、室鳩巢が「越中百里山河壮なり」と称したように、富山県には東西九十キロあまりの県土に、黒部川、片貝川、早月川、常願寺川、神通川、庄川、小矢部川の七大河川をはじめ数多くの河川が流れて



います。これらの多くは、急峻な山岳地帯を流れて、短い距離で海へ注ぐことから我が国有数の急流河川となっており、古来、毎年のように洪水を繰り返してきました。

なかでも常願寺川は、安政五年（一八五八年）の大地震で源流域の大鷲山、小鷲山が崩壊、立山カルデラ内に流入した大量の土砂が土石流となって富山平野を襲い、大きな被害を与えました。富山県の歴史は、水との闘いの歴史といっても過言ではありません。



土石流で流されてきた安政の大転石。重さが約400トンもある。(富山市西番)

富山の水。そのうまさの秘密

雪 峰々に降り積もった雪が、夏でも豊かで冷たい水を供給してくれる。

森 本州第一位の植生自然度を誇る森林が、水を貯え、きれいにしてくれる。

川 日本一の急流河川が岩を噛んで流れて酸素を取り込み、清浄な水を運んでくれる。

地 平野を形成する扇状地の砂礫層は透水性やろ過作用に優れた花こう岩質を多く含み、適度にミネラルを含んだ良質な水をつくってくれる。

富山の水の人気広がる

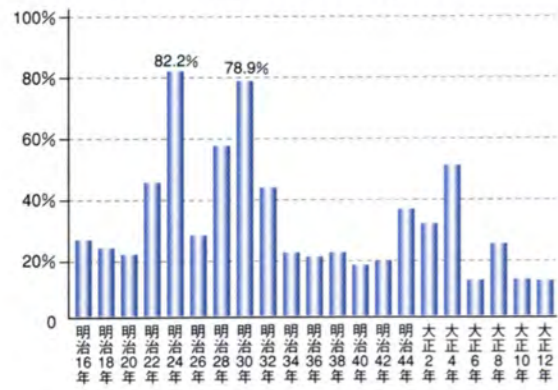
富山の水は、東京ディズニーランドでも販売されています。これは、日本航空のグループ会社「日航商事株」が、入善町で採取されたミネラルウォーターを商品化したもので、昨年四月の発売以来、四十万本以上の売上げを記録しています。最近では、このほかに富山のミネラルウォーターが全国のスーパーやコンビニエンスストアなどで販売されるケースが増えました。美味しい水の産地としての富山県のイメージは、着実に広まっています。



東京ディズニーランドで販売されている富山産のミネラルウォーター



■富山県の歳出決算額に占める河川費の割合



このような河川改修は、他の河川でも行われました。富山市の市街地付近で大きく曲流していた神通川のショートカット（現在の松川は、旧神通川の曲流の名残）、庄川と小矢部川の分離など、現在の富山県の河川の流れはこの時代に形づくられたといえます。また、農業用水の合口化は、黒部川、神通川、庄川などでも実施され、水害防止だけでなく、農業用水の取水の安定化にも役立ちました。

しかし、治水事業に要する費用は県の財政に重くのしかかります。明治時代の富山県の歳出全体に占める河川費の割合は平均で四十五％。洪水が頻発した明治二十四年には、八十二％にも達しました。県と同様に県民の生活も苦しく、多くの人々が新天地を求めて北海道に移住していきました。

人々は、災いを福に転じた

やがて人々は、水を治めるだけでなく、電力資源として富山県の発展のために利用するようになります。

今からちょうど百年前の明治三十二年（一八九九年）、富山電燈会社が農業用水を利用した水力発電所を建設、北陸ではじめての電力事業を開始しました。これは家庭電灯用の発電でしたが、同社はその後神通川上流の庵谷に産業電力用の発電所を建設、電力の供給先として工場を誘致しました。

また、大正九年（一九二〇年）からは県営の発電事業も開始されます。これは、県が常願寺川水系で治水事業を行うかたわら水力発電所を建設して工業地帯に電力を提供し、その収益で治



県営発電事業で建設された最初の発電所のひとつ松ノ木発電所(上)と中地山発電所(下)。現在は北陸電力の発電所として、当時の建物のまま使用されている。

INFORMATION

県が運行している「県政バス教室」では、先人達の英知と努力をしのぶ「常願寺川砂防ウォッチング」コースも用意しています。どうぞ、ご参加ください。

これからお申し込みいただける「常願寺川砂防ウォッチング」

コースの運行日	9/9(木) 富山地区発 10/14(木) // 10/28(木) 高岡地区発
受付期間	9月運行分 6/30~7/13 10月運行分 8/2~18

問合せ先
広報課 ☎ 076(444)3133

いま私たちは、毎日の暮らしの中で、ごく当たり前に水の恵みを受けています。しかしその陰には、暴れ狂う水を治め、利用し、災いを福に転じた先人達の苦勞があったのです。

これからの水に親しむ機会の多いゾーン、富山県の歴史を切り開いてきた先人達の英知に思いをはせてみるのもいいかもしれません。

富山県成立までの変遷



しかし、併合後の石川県会（現在の県議会に相当）では、多大な費用を必要とする治水事業をめぐって、越中選出の議員と加賀・能登選出の議員とが鋭く対立しました。住民の生命を守るための治水工事優先を求める越中側に對し、加賀・能登側は道路建設を求めたのです。

明治十四年（一八八一年）、政府の緊縮政策によって治水事業に対する国からの補助金が廃止されると対立は頂点に達し、ついには県会の解散に至ります。

こうした中、越中国内には分県独立を求める声が急速に高まりました。入善の米沢紋三郎と富山の入江直友らは分県の建白書を太政官に提出。政府高官と面談し、分県を直接訴えました。米沢らははたらきにより、明治十六年（一八八三年）五月九日、太政官は富山県を石川県から分離する布告を公布。ここに、現在に至る富山県が誕生したのです。



分県陳情のため上京した米沢紋三郎(中)

分県の父
米沢紋三郎 (Mitsuaki Yonezawa)

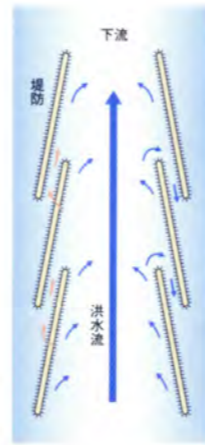
入膳村（現入善町）の豪農の家に生まれる。明治十四年に石川県会議員に当選。分県運動の高まりの中で分県建白の委員長に選ばれて建白書を起草。副委員長の入江直友らとともに上京し、右大臣岩倉具視、参議山県有朋、内務卿山田顕義らに直接分県を訴えた。

富山県の設置後、最初の県会議員に当選し議長を二回務めたほか、衆議院議員にも選ばれた。

水との闘いは続いた

新たに誕生した富山県は、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケなどの指導を得ながら県内主要河川の治水事業にとりかかりました。

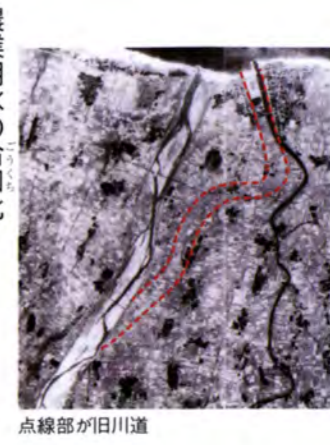
なかでも有名なのが常願寺川の治水事業で、この工事では、「放水路の開削と分流」「農業用水の合口化」「霞堤の築造」という、いわゆる「デ・レーケの三大工法」が採用されました。



霞堤の築造
堤防を連続させずに水の流れと逆方向の開口部を設け、洪水の際は、流れの一部を遊水させて水圧をやわらげました。



農業用水の合口化
全部で十二あった常願寺川左岸の農業用水の取水口を一つにまとめ、堤防を強化しました。こうして完成した常西合口用水は、現在では富山市の水道水としても利用されています。



放水路の開削と分流
河口付近に新しい放水路を開削して流れを直線化するとともに白岩川と分離し、水の流れをよくして洪水の被害を軽減しました。

汚濁物質の河川からの流入量に関する評価
日本海や黄海に注ぐ主要河川からの汚濁物質量を調査し、海洋環境の水質管理を図ろうというものです。環日本海地域の河川について統一的方法・評価指標に基づく調査が行われるのは今回がはじめてとなります。

重要な役割を担う地域活動センター
今回設置されることになった地域活動センター(RAC)は、NOWPAPが実施する各種プロジェクトの活動拠点で、参加国にそれぞれ一つずつ設置されます。それぞれの業務内容は、UNEPと各国政府との協定によって正式決定されますが、富山に設置される「特殊モニタリング・沿岸環境評価に関する地域活動センター(CEA/RAC)」の担当業務は、次のようなものになる見込みです。



(財)環日本海環境協力センター(富山市)

国際機関が富山に誕生
このたび、富山市にある(財)環日本海環境協力センター(NPEC)に、NOWPAP(北西太平洋地域海行動計画)の地域活動センター(RAC)が設置されることになりました。
これは、四月に中国の北京で開催されたNOWPAP第四回政府間会合において合意されたものです。会議には、日本、中国、韓国、ロシアの各国政府代表やUNEPなど国際機関の関係者が出席、富山県からも新原副知事らがオブザーバーとして出席しました。



汚染モニタリングに関する地域活動センター
ロシア科学アカデミー太平洋地理学研究所内に設置

データ・情報ネットワークに関する地域活動センター
中国国家環境保護総局情報センター内に設置

特殊モニタリング・沿岸環境評価に関する地域活動センター
(財)環日本海環境協力センター内に設置

海洋環境緊急準備・対応に関する地域活動センター
韓国材料機械研究院船舶海洋工学研究所内に設置

※名称はいずれも仮称です。



NOWPAP第4回政府間会合から



会議で発言する富山県の新原副知事

海洋環境保全をめざすNOWPAP
NOWPAP (North-west Pacific Action Plan) とは、日本、中国、韓国、ロシアの四カ国が国連環境計画(UNEP)の提唱により策定した、海洋環境保全の協力についての行動計画です。

UNEPは、国際的な閉鎖性海域での環境保全に向けた行動計画の策定を提唱しており、現在、地中海やカリブ海など世界の十四の閉鎖性海域で同様の行動計画が策定済み、または策定に向け準備が進められています。
NOWPAPは、そのうちのひとつで、日本海と黄海を対象海域とし、海洋環境モニタリング、海洋汚染防止措置、海洋汚染緊急時対応などについての協力を定めています。



(財)環日本海環境協力センターが水質改善のための協力を実施している中国遼寧省の遼河

生物評価法(バイオアセス)によるモニタリング手法の開発
生物の生息状況などを通じて、人工化学物質が環境に与える影響を調査しようというものです。この手法は、多種多様な化学物質による複合汚染の影響を把握するための調査方法として研究が進められています。

リモートセンシングを活用したモニタリング手法の開発
人工衛星などを利用して広域的に観測を行い、環境汚染の実態把握とその対策を検討しようというものです。この手法は従来の船舶を利用した調査に比べ、定期的に広範囲にわたる質の良いデータを得ることができま。

関係地域の生物多様性・開発状況などについての情報収集
シンポジウムの開催、機関誌等の発行、関係機関との連絡調整

海洋環境保全の情報交差点に

富山県は、環日本海環境協力の中核拠点づくりをめざして、平成九年に環日本海環境協力センターを設置し、同センターが昨年九月に政府所管の公益法人となつてからも積極的に支援しています。
地域活動センターは、日本以外の三カ国ではいずれも政府直属の試験研究機関に設置されることになっており、地方の機関への設置は、(財)環日本海環境協力センターだけです。



NOWPAPのあゆみ	
平成6年(1994年)	第1回政府間会合(タイ・バンコク) 北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)を採択
平成8年(1996年)	第2回政府間会合(東京) 5つのプロジェクトの推進を合意 ①対象海域の海洋環境に関するデータベースの構築 ②各国の海洋環境保全に関する法令等の内容の調査 ③対象海域のモニタリングプログラムの作成 ④油汚染事件時の対応 ⑤各分野の活動の拠点となる地域活動センターの指定
平成10年(1998年)	第3回政府間会合(ロシア・ウラジオストク) プロジェクトごとの主要業務や組織等を議論
平成11年(1999年)	第4回政府間会合(中国・北京) 4つの地域活動センター(RAC)の設置を合意

このことは、県がこれまで進めてきた環日本海地域の環境保全のための施策が高く評価された結果といつてことができます。
地域活動センターは、海洋環境保全に関する情報の交差点として位置づけられるものです。そのひとつが設置されたことで、各種国際会議の開催が増えることも予想され、環日本海交流における富山の拠点性は今後一層高まることでしょう。
県では、環日本海地域の環境保全のための国際協力が促進されるよう、一層積極的に取り組んでいきます。
※富山県の環日本海環境協力については、本誌平成十年十一月号で紹介しています。
●問合せ・ご意見は、
(財)環日本海環境協力センターまで
☎076(445)1571

環日本海環境協力の中核拠点へ着実な第一歩



闇の道。うねるような暗い道を、空気の気配、砂利の音などを確かめながら歩く。解放の喜び、一抹の寂しさに包まれる。

五響の森「立山博物館 まんだら遊苑」

立山の自然と人間の関わりを紹介する富山県「立山博物館」の野外施設のひとつ。まんだら遊苑を含めて、周囲に整備された施設・ゾーンが互いに響き合い、立山信仰の世界を展開していることから、「五響の森」という。まんだら遊苑は、「地界」「陽の道」「天界」「闇の道」の4つのエリアから構成されており、自然と地形の特性を生かして、つくられている。

開券時間／午前9時30分～午後5時
観覧料／一般400円、高・大320円、小・中200円
休苑日／毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）
祝日の翌日
12月～3月は冬期休苑になります。
問合せ／☎076(481)1216

- 自家用車で
北陸自動車道富山ICから約35分
北陸自動車道立山ICから約30分
- 公共交通機関で
富山地方鉄道千早駅から徒歩2km
（平日朝夕のみバス運行）
7/24～8/22、10/2～10/11は、立山駅からシャトルバスを運行。運行ダイヤの間合せは、富山地方鉄道テレフォンセンターへ。
☎076(432)3456

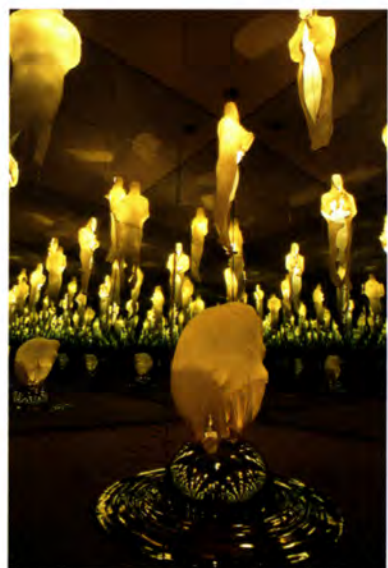
博物館オリジナルTシャツを5名の方にプレゼントご希望の方は、13ページをご覧ください。



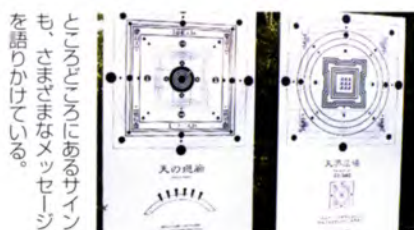
欲界を超えた清浄な空間「天至界」。中央に、縄文の文様をめぐらした楕円の物体がある。この内部が最終到達点である「天界」。内部はつぎめのない空間で、胎内での記憶がよみがえるかのような、深い充足を感じる。



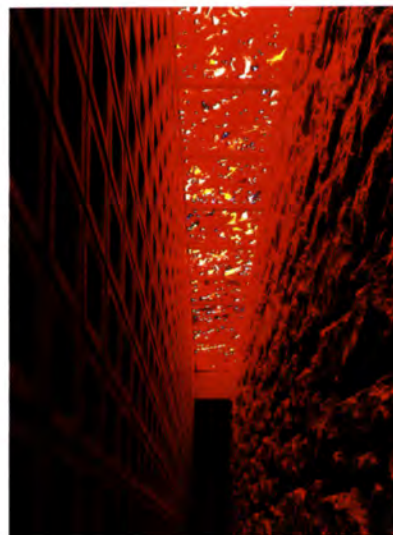
古代インドの須弥山の世界観が表現された「天界広場」。中央にそびえる山の四方に遊苑があるという。まんだら遊苑の名は、ここから取られている。



7人のアーティストが、一辺4.5mの小空間に思い思いの天界をつくりだした「天界窟」。それぞれに入るたびに、精神世界の扉が開かれる。



「天界」のシンボルであるサインも、さまざまなメッセージを語りかけている。



八熱地獄を表す「音触鬼」。狭い空間を行くと、鬼の叫びや喚きが耳を襲う。とても平常心ではいられない。



八寒地獄の最終段階を表す精霊橋（左上）。床は網目状で、足元からも風が来る。橋の先端の鐘を鳴らすと心が救済されるという。橋のたもとに広がる地界広場では、モダンバレエや能が上演されたこともある。



餓鬼の針山近くに積み上げられた岩の隙間からは、餓鬼の声が聞こえてくる。でこぼこした岩場は、足の裏を刺激し、平らな所を歩きなれた現代人への感覚刺激となっている。



立山登山を体験する「陽の道」。黄色い花は、オオキンケイギクやミヤコグサなど。黄色は浄土へ導く色という。



陽の道の「マ」の字の石にある「響の観音」。その音、立山登山道に道標として置かれていた三十三観音になぞらえている。

五響の森「立山博物館 まんだら遊苑」

音、光、香り、色、かたち。五感で感じる立山まんだららの世界。

現代人が忘れたものを、もう一度感じてみよう。

まんだららの出発点は、克服すべき「地界」

どきどきした。はらはらした。ぎよつとした。しみじみとした。ほつとした。ゆつたりとした。すがすがしくなった。まんだら遊苑には、人が感じるあらゆる感覚があるといっている。

ここは、立山曼荼羅の世界観を五感で感じ、体験する施設。立山曼荼羅とは、立山信仰に基づく宇宙観を絵にしたもの。そこにある日本人の死と生に対するさまざまな思いを、現代に問いかけ、私たちに感じさせてくれる。出発点となるのは、地獄をイメージした「地界」。その入り口にあたる閻魔堂は、腰をかがめて入らなければならぬ。恐る恐る入ると強い匂いに包み込まれる。地界は、閻魔堂、八熱地獄、餓鬼道、八寒地獄の世界からなり、音、界、閻魔、地獄百景、音触鬼、地唸鬼、水窟鬼などが待ちかまえている。最後は、最も恐ろしい段階の地獄を表す精霊橋。常願寺川に突き出した橋の先端には、現代人が感じる恐怖と救済がある。

立山を登る道「陽の道」から、満ち足りた天の世界へ

「陽の道」は、花の香りや鳥のさえずりなど、自然をそのままに感じながら歩く道である。美女平、称名滝などの地名が刻まれた石に出会い、立山へ登る道になぞらえてあるのがわかる。初夏から黄色い花で埋め尽くされる花畑を眺め、やがて天界へ案内される。廻廊をめぐり、天界へ。まんだら遊苑では、天界は地下にあり、イメージの転換が図られている。ここには、七人の作家が天界を造形した天界窟、天の音を楽しむ天界奏楽洞、浮遊感を楽しむ天遊戯敷、そして天至界、天界がある。意識を解放し、心地よい世界へ遊ぶことができる。

天界を離れ、現世へ回帰するための道が「闇の道」。暗いトンネルを歩くと、床に敷かれた砂が足の裏を刺激する。すべての感覚を総動員して光の方へ行く。この世に再び生まれ出るのだ。

感覚で、精神で、遊ぶ

まんだら遊苑には、ふたつの楽しみ方があるのかも知れない。ひとつは理屈抜きに全身の感覚で体感する方法、もうひとつは立山や人間にまつわる歴史や心理などを読みとりながら精神世界に遊ぶ方法。「ここはこうだあだ」と意味を求める大人より、無心で体験する子どもの方がより深く感じているかもしれません。どんなふうになって、自分のなかで、「生きる」とは何か」ということを少しでも感じていただければいい」と米原館長は語る。まんだら遊苑にこめられた概念と仕掛けは、詳しく知るほどにおもしろく、何度も訪れたいくなるほど深い。

野生生物の映像は、自然そのもの。だから、生きる力が伝わってくる。

富山発 地球の自然と環境を考える映像祭

世界の自然や野生生物の映像を選手・上映し、自然や環境に対する理解を深めてもらうという「ジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル」が、平成九（一九九三）年以来一年おきに富山県で開催されている。これは、イギリスやアメリカの映像祭と並び世界三大野生生物映像祭のひとつで、日本では、豊かな自然に恵まれていることから富山県が開催地に選ばれた。今年の夏で、四回目を迎える。



第3回映像祭の授賞式から

ボランティアの力で、富山から世界へ発信。

世界野生生物映像祭「ジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル」。略称JWF。これは、一般の人々が世界の自然や野生動物の映像にふれることによって、自然保護の意識を高めてもらうという映像祭である。

日本では富山県が開催地となり、世界に向けて映像を通したメッセージを送っている。

運営の中心は、高校生以上のボランティア。平成九年の第三回映像祭では、のべ六五三名のボランティアが参加、早勢さんは、そのコアメンバーとして、準備段階から当日の運営、公式カタログの編集にいたるまで、さまざまな分野で活躍した。

「高校生から熟年の方まで、いろいろな人が集まってイベントをつくりあげていく。楽しいボランティアです」。

しかし、イベントというものは何が起るかわからない。第三回映像祭の期間中は、プログラム変更への対応に追われるなど、大忙し。

「気が付いたら映像祭の終了後。結局、作品はビデオでしか見られませんでした」と、苦笑いする。

野生の生物が感じさせてくれるものは、大きい。

テレビ番組「野生の王国」を見て育ったという早勢さんは、大画面で見る野生生物の映像に惹かれている。「環境や動物の保護というと、『絶滅から守ろう』というような危機感に訴えるものもあるけれど、JWFの映像は、野生の生物を通して、生きる力を感じさせてくれる。前向きなメッセージなんです」。

人間がとても住めないような極寒で生きる動物。生存競争の厳しさ。また、過酷なサバイバルだけではなく、身を守るための「群れ」という知恵。これまで見た映像を語る早勢さんの目には、野生生物の向こうに人間が見えているのかもしれない。

心はずでに、四回目の夏。

第三回映像祭では、素潜りの元世界記録保持者で映画「グランブルー」のモデルになったジャック・マイヨール氏が特別ゲストで参加、映画監督である羽仁進氏の講演もあった。早勢さんは、「今年八月の第四回映像祭では、これまで以上に内容を充実させたい」と抱負を語る。

「このフェスティバルのメッセージを、



ジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル
世界自然・野生生物映像祭
ボランティアスタッフ
早勢欣和さん
(はやせよしかず)

1967年生まれ
富山商船高等専門学校
電子制御工学科教官



第3回映像祭(平成9年)のポスター



元世界記録保持者
素潜りJ・マイヨール氏(第3回映像祭より)



もっと多くの人に知ってほしいんです。ボランティアのネットワークも広げたい。

決して声が大きいい方ではない。口数も多くないかもしれない。しかし、言葉のひとつひとつに穏やかだが、強いものがある。

「今回からは、一部の作品が日本語の吹き替えになり、子どもたちにも楽しんで見てもらえると思いますよ」。

また、ノミネート作品だけでなく、幅広い招待作品が上映される予定。セミナーやシンポジウムの企画も進んでいる。

早勢さんをはじめ、多くのボラン



会場でのボランティア活動風景(第3回映像祭)

ティアの心をとらえるJWF。そして、多くの人々に感動を与えてきた野生生物の映像。そこには、早勢さんと同じ、真摯な、そして静かで強い「何か」があるようだ。

第四回世界野生生物映像祭 in 富山
と き/平成11年8月18日(水)前夜祭
〜22日(日)

会場/富山市民プラザ

高岡おとぎの森館

黒部市吉田科学館

問合せ/地球映像ネットワーク
富山事務局

☎076(445)5460

近代美術館
富山市西中野町1-16
☎07644211711

毛利武士郎展
[6/27(日)まで]
現代日本彫刻の展開に重要な足跡を築いた毛利武士郎の回顧展です。
一般700円/高・大500円/小・中350円

第7回富山国際現代美術展
[7/9(金)~9/5(日)]
一般1,000円/高・大750円/小・中500円
9:30~17:00 ㊟月曜・祝日の翌日
常設展示観覧料
一般200円 高・大160円 小・中100円



水墨美術館
富山市五福7-7
☎0764313719

染一郷土の染色作家展
[6/4(金)~7/4(日)]
本県出身の染色作家の業績を回顧し、「染」が生み出す美の世界を紹介します。
一般700円/高・大500円/小・中350円

9:30~17:00
㊟月曜・祝日の翌日
常設展示観覧料
一般200円 高・大160円 小・中100円



立山博物館
立山町立山93-1
☎0764811216

山岳映像イベント'99
[6/27(日)14:00~16:30]
会場/立山町民会館(地鉄五百石駅から徒歩5分)
講師/長谷川昌美(アペルカイト)、多賀谷治(クライマー)
映像/「北壁に舞う」(106分)
世界三大北壁の一つ、グランドジョラス北壁の単独登頂を描いたドキュメンタリー
※入場無料

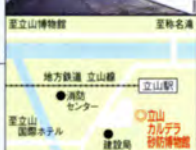
9:30~17:00 ㊟月曜・祝日の翌日
一般650円 高・大400円 小・中250円
※展示館・透望館・まんだら遊苑の三施設セット券の料金(各施設ごとの入場券もあります。)



立山カルデラ砂防博物館
富山地方鉄道立山駅前
☎0764811160

「土砂災害防止月間」特別展
[6/30(水)まで]
6月は土砂災害防止月間です。
この機会に土砂災害について考えてみませんか?

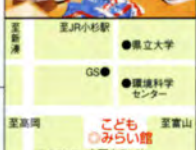
●ハイビジョン映像上映時刻(約35分)
10:00、11:00、13:00、14:00、15:00、16:00
9:30~17:00
㊟月曜・祝日の翌日
一般400円 高・大320円 小・中200円
※特別企画展のみ観覧の場合は無料



こどもみらい館
小杉町河川大開山ランド内
☎0766190000

夏のクラフトランド
[6/5(土)~7/11(日)]
材料代100円(当日受付)
紙を使って、つばめや風車を作ります。

9:30~17:00
㊟火曜・第4水曜・祝日の翌日
入館無料



公文書館
富山市茶屋町33-12
☎07643414050

常設展示
「富山県の誕生と県政の動き」
富山県の誕生の経緯や明治・大正期を中心とした県政の動きをご紹介します。

9:00~17:00
㊟土曜・日曜・祝日
入館無料



中央植物園
婦中町上野田42
☎076146614187

企画展示「植物写真展」
[6/18(金)~30(水)]
植物園オリエンテーリング
[6/20(日)10:30~12:30] ※当日受付
植物学講座「染色体の観察」
[7/11(日)10:00~16:00] ※要申込

9:00~17:00
㊟木曜・祝日の翌日
一般600円 小・中300円



自然植物園
婦中町吉住111
☎076146915252

愛鳥ポスター展
[6/20(日)まで]

9:00~16:00
㊟火曜・祝日の翌日
入園無料



泉民公園太閤山ランド
小杉町黒河477416
☎0766566116

'99太閤山あじさい祭り
[6/26(土)~7/4(日)]
太閤山ランドプール開き
[7/10(土)10:00~16:00]

9:00~17:00
㊟火曜・祝日の翌日
入園無料



海王丸パーク
新湊市海王町8
☎07661825881

海王丸総帆展帆
[6/20(日)]
海王丸パーク誕生祭
[7/4(日)10:00~16:00]
海王丸パークの開園日(平成4年7月5日)を記念して、来園された皆さんに記念品をプレゼントします。

入園自由
帆船海王丸は9:30~17:00
㊟月曜・祝日の翌日
一般400円 小・中200円



利賀芸術公園
利賀村上百瀬
☎07631682028

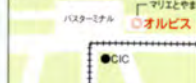
きょうげんとらくご「日本の笑い」
日本の笑いのルーツ~狂言と落語の世界
[7/4(日)14:00~16:00]
出演/野村万蔵、林家小染、柳家さん喬
3,000円(要予約)

9:00~17:00
入園無料



県民小劇場オルビス
富山駅前マリエラ階
☎076944514531

オルビスと巡る「舞台芸術・芸能一発見ライブ」
[7/31(土)18:30~]
Vol.12 歌っておもしろい!
出演/岩井理花(ソプラノ)
懐かしい日本の歌、世界の歌、オペラの世界など、幅広いジャンルの歌をトークを交えて楽しくお届けします。
※公演終了後、交流会(参加無料)を開催します。
3,000円(会員は無料です。)



編集部から

県広報とやま「通常版」は年7回発行し、次の場所で無料配布するほか、郵送による定期購読も受け付けています。また、年3回発行の「各世帯版」は、新聞折込により各家庭に配布します。

主な配布箇所
県庁、市町村役場、富山市の各地区センター、公立図書館、県刊行物センター(県民会館1階)、県税事務所、県消費生活センター、高岡文化ホール、新川文化ホール、高岡テクノドーム、富山テクノホール、富山市民プラザ、いきいきKAN(富山駅前CIC5階)、高岡駅、小杉駅(南口)・砺波駅・滑川駅、富山空港、東京事務所、大阪事務所、名古屋事務所

定期購読の申込方法
郵便番号・住所・氏名・電話番号・購読回数を明記し、郵送料として1回当たり160円分の切手を同封のうえお申し込みください。
※定期購読期間中は、通常版・各世帯版の両方を郵送しますが、郵送料の負担は通常版の方だけで結構です。

あて先
〒930-8501(住所不要) 富山県庁広報課「県広報とやま」定期購読係

プレゼントのお知らせ
9・10ページで紹介した立山博物館のオリジナルTシャツを5名の方にプレゼントします。官製ハガキに、郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、本誌についての感想・入手方法を記載してお申し込みください。7月20日消印有効です。(上記であら先6月号プレゼント係) 2月号プレゼント当選者
助川伸弘さん(富山市)、吉浦絹子さん(富山市)、林田正夫さん(砺波市)、森野稔さん(朝日町)、横井敏朗さん(八尾町)

県政番組のご案内
■テレビ
こんにちは富山県です
北日本放送 毎週日曜 11:00~11:30
とやま超発見! フォーカス・イン2
富山テレビ 毎週日曜 9:00~9:30
富山見たモン勝ち
チューリップテレビ 第4日曜 10:00~10:52

■ラジオ
とやま県聞録
FMとやま
毎週月曜~木曜 11:30~11:40
毎週土曜 11:30~11:55

7月号は各世帯配布版です。7月7日(水)の、北日本・読売・富山・北陸中日の各紙朝刊に折り込んでお届けします。

■富山県ホームページ
<http://www.pref.toyama.jp/>

健康ひとくちメモ

手軽な疲労解消法



A 最近、仕事が忙しく、疲れがたまっています。疲労解消のよい方法はありませんか。(40代男性)

Q 手軽な疲労解消法といえば、なんといっても入浴ですね。体温に近い三十八度前後のお湯にゆっくり入ると、緊張を和らげる副交感神経の働きが活発になってリラックスできます。このとき、手足を軽くもんだり、さすったりすると一層効果的です。

■また、音楽鑑賞も手軽な疲労解消法のひとつ。ジャンルにかかわらず、自分の好きな音楽を聴いている時は心身が安らぐといわれます。照明を暗くした静かな部屋で音量を抑え気味に、からだを横にしながらかくとよいでしょう。

■このほか、アロマセラピーもおすすめ。これは、植物から抽出した純粋な精油(エッセンシャルオイル)の香りを身体に取り込むことによって、心と体を元気にする健康法です。ラベンダーやカモミールのオイルを浴槽やお湯のに入ったカップなどに数滴入れ、立ち上る蒸気を吸い込むと、粘膜を通して吸収された香りの成分が脳に直接働きかけ、心身をリラックスさせてくれます。

■七月九日(金)にオープンする国際健康プラザの健康スタジアムでは、温泉や音楽、香りなどを利用した休養メニューを一人ひとりの健康状態や希望に応じて提供する予定です。ぜひご利用ください。

●問合せ・ご意見は国際健康プラザ建設室まで
☎076(428)0809

国体ニュース

チャレンジ精神で さらりんびつくをサポート!

■来年十月に開催されるさらりんびつく富山(第三十六回全国身体障害者スポーツ大会)をサポートする「さらりんメイト」の委嘱状交付式が四月十七日、行われました。



中沖知事から委嘱状を受けるさらりんメイト

■さらりんびつく富山は、「自分」にチャレンジしあしたにチャレンジ!!」をスローガンとして開催される「もう一つの国体」で、七つの競技が行われ、全国から約二千人が参加します。

■さらりんメイトは選手団の歓迎迎や手話通訳、介助・案内などに携わるスタッフの愛称で、医療、保育、福祉を学ぶ県内の短大、専門学校生ら約六〇〇名が参加します。

■式では中沖知事が「心のバリアを取り除き、チャレンジ精神をもって心のこもったサポートをお願いしたい」とあいさつ。これに対し、学生を代表して、富山福祉短期大学一年の木船卓さんが「障害者とのふれあいを通じて、福祉の輪が広がるよう頑張ります」と決意を語りました。

●問合せ・ご意見は
身体障害者スポーツ大会室まで
☎076(444)8600



とやま 音のある 風景

風に、水に、森に、
溶けいりそうな午後。

Vol.13

墓ノ木自然公園の野鳥と
黒部川の水音
●入善町

黒部の川筋に沿って、さわやかな風がながれてきた。扇状地のかなめ、愛本橋の赤いアーチの見えるあたりまで遡ると、石ころだらけの河川敷に、こつ然と緑ゆたかな森が出現する。「墓ノ木自然公園」は、野鳥の種類の数々では全国有数といわれる、鳥たちの楽園なのである。

約三十haの広大な原野にはアキゲミヤコゴメヤナギのほか、深山性のケヤマハンノキやクヌギ、コナラ、ヤマザクラが葉を広げ、ビビツ、チチチと、ほんのちよつと耳をすますだけでも五種類以上の野鳥の声を聞き分けることができる。近くを流れる黒部の本流では、激しくうねる水の音がゴーゴーと響くが、公園の中は別天地。キャンプ場に引き込まれた疎水はさらさらと流れ、まるで上高地のような風景が広がっている。夏は県内外からのキャンパーでにぎわい、多いときには三百張りものテントが並ぶという。

昔、たび重なる洪水に悩まされた村人たちは、京の本願寺建設に伴う寄附の割り当てに依拠するため、墓地のまわりの松を伐ってお金を納めた。それが「墓ノ木」という地名の由来とされる。

治水事業により川筋が安定した現在、河川敷には森が育ち、木々の葉が初夏のさわやかな風にそよぐ。おだやかさとやすらぎを求め、鳥も人もしばし森の住人となる。

※県では昨年、未来に伝えたい、残したい、県内五十箇所の「とやまの音風景」を認定しました。